ISSN　2188-2541　　なごやの生物多様性　9：81-85（2022）

報告

天白川に自生していたキスゲの移植について

西部　めぐみ

なごや生物多様性センター　〒468-0066 愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地

Transplantation of *Hemerocallis citrina* which grew naturally in Tempaku river

Megumi NISHIBU

Nagoya Biodiversity Center, 230 Motoyagoto 5-chome, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-0066, Japan

Correspondence:
Megumi Nishibu　E-mail: ni4megu@hotmail.co.jp

要旨

天白川河川敷の改修工事によって，名古屋市内唯一であったキスゲ *Hemerocallis citrina* の自生地が失われることとなった．そこで，工事前の2020年８月に代替地への移植を実施した．その後，定着確認のモニタリングを行った結果，2021年７月には開花を確認することができた．

はじめに

キスゲ *Hemerocallis citrina* Baroni var. *vespertine*（H. Hara）M. Hottaは，名古屋市版レッドリスト2020で絶滅危惧ⅠA類（CR）と評価されている希少植物である（名古屋市環境局環境企画部環境企画課，2020）．本種は山地や丘陵地の林縁などのやや乾いた日当たりの良い草地に生育する多年生草本で，花は夕方に開花し，翌朝に閉じることからユウスゲとも呼ばれる．近年，名古屋市内ではキスゲが好む環境が工事などの人為的な影響によって激減しており，かつて緑区に生育していた個体群は，用水土手の改修工事によって絶滅したことが確認されている（芹沢，2015）．そのため，名古屋市内で残存する自生地は天白川沿いのみとなっていた．しかしながら，2020年９月の天白川の改修工事に伴って，この自生地が工事範囲となることが明らかとなった．そこで，管理者である愛知県尾張建設事務所（以下，尾張建設事務所）と協働し，工事前に代替地への移植を行った．そして，移植後のモニタリングにおいて，代替地における開花を確認することができた．今回の例は移植によって希少植物の消失を回避できた好例であると考えられるため，移植作業に至る経緯とその作業内容，ならびに移植後の定着を確認するモニタリングについて報告する．

移植に至る経緯

かねてより，天白川沿いにキスゲが自生していることは地元市民などの間では知られていた．ところが，2020年７月末，その自生地が河川改修工事によって消失する可能性があることに気付いた池竹克年氏から，工事を進めていた尾張建設事務所へ工事範囲内におけるキスゲの生育情報が寄せられた．それを受けた尾張建設事務所からなごや生物多様性センター（以下，センター）に，2020年８月２日，工事範囲内に生育している植物がキスゲか否かの確認と，キスゲである場合は工事の影響範囲外へ移植を行うことの是非と移植先で定着可能か否かとの問い合わせがあった．そこで筆者は，工事範囲内の自生地確認と移植先の検討を行うため，『レッドデータブックなごや2015　植物編』の執筆者である芹沢俊介氏と共に，８月11日に現地確認を行った．移植の可否について

図１．工事前の自生地（左）と個体数調査で確認したキスゲの結実個体（右）.

図２．バックホーを使った掘り出し作業.

図３．移植作業.

は，キスゲ属は園芸的にも栽培される植物であるため，移植には耐えることができるだろうとの芹沢氏の意見により，元の自生地より約150 m下流の河川敷へ移植することが決まった．なお，本稿では希少植物保全のため，詳細な移植位置図の掲載は控える．

移植前の自生地におけるキスゲ個体数確認

自生地におけるキスゲの生育状況を確認するために，2020年８月18日に個体数調査を行った．その結果，28 m × 5 mの範囲に53株のキスゲを確認した（図１）.

移植作業

2020年８月31日，尾張建設事務所の担当者と工事を施工する株式会社鈴木工務店の社員数名，およびセンター職員数名でキスゲの移植作業を行った．なお，自生地からキスゲを掘り出す際，地面が固く，ショベルを使っての人力作業では限界があったため，バックホーも併用して可能な限り多くの株を掘り出すことを試みた（図２）．掘り出したキスゲは，根が乾燥しないうちにトラックにて移植先へ運搬し手早く植え付けた（図３）が，移植先のスペースと作業時間の関係から，自生地のすべての株を移植することは難しく，移植できたのは27株であった．なお，斜面上部に18株、斜面下部に９株を移植し，定着するまでの踏み荒らしなどを防ぐため，移植範囲をビニール紐で囲み，看板を設置した（図４）.

移植後のモニタリング

移植から16日後の2020年９月16日に定着状況を確認したところ，移植のダメージによる枯れた葉が目立ったものの，株自体は定着している様子であった．また，約３ヶ月後の2020年12月１日には新しく出た葉も確認できたため（図５），踏み荒らし防止用として周囲を囲んでいたビニール紐と看板を撤去した．その後，翌年の2021年５月26日にはしっかりとした株に生長していることが確認

図４．移植が完了した株（左）と移植完了後の様子（右）.

図５．移植株の様子.
　　ａ：2020年９月16日撮影.
　　ｂ：2020年12月１日撮影.
　　ｃ：2021年５月26日撮影.

図６．移植地にて開花が確認されたキスゲ(2021年７月29日，池竹克年氏撮影).

され（図５），同年７月29日には池竹氏によって花が確認されたため（図６），これをもって完全に移植地に定着したと判断した．なお，移植先一帯は例年８月下旬～９月上旬頃に草刈りが実施されるが，草刈り後の2021年９月10日と10月14日にキスゲの株の状態を確認したところ，上部は草刈りによって消失してしまっていたものの，新しく葉が伸長している様子が確認されている（図７）．このことから，キスゲは草刈りによって株の上部が刈り取られてしまっても，根が残っていればすぐに回復することがわかる．また，図１で示したように，元々の自生地では2020年８月18日には結実個体の成熟した蒴果が裂け，種子が散布されている様子を確認していることから，移植地においての種子散布は未確認であるものの，元々の自生地と同時期に種子が散布され，その後に草刈りが実施されていると考えられるため，草刈りは次世代を残

図７．草刈り後に回復した株（左：2021年９月16日撮影，右：2021年10月14日撮影）．

図８．移植地の様子（2021年10月14日撮影）．
破線内は斜面上部に移植したキスゲ．

図９．斜面下部の移植地の様子（2021年10月14日撮影）．
破線内は移植したキスゲ．

すためにはむしろ良い影響を与えているのではないかと考えられる．ただし，斜面下部に移植した株周辺は草刈りがなされておらず，セイバンモロコシ *Sorghum halepense* などの背丈の高い草に覆われてしまっていた（図８，図９）．他の植物に覆われる状況が続くようであればキスゲの存続が危ぶまれるため，今後数年は移植後の様子に注目していく必要がある．

おわりに

本移植作業によって，キスゲの名古屋市内消失を回避することができた．こうした希少植物は，人知れずに工事や宅地造成などの人為的影響で失われてしまうことが往々にしてある．今回のケースは，市民からの情報提供で，行政と専門家が迅速かつ上手く連携し希少植物の消失を食い止めることができた好例である．このように，生物多様性を保全する上では，地域と行政が連携を図っていくことが重要である．なお，移植により本来の自生地と異なる位置に生育することは厳密には「野生絶滅」となるが（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2015），今回は同じ河川の近接したほぼ同じような環境の場所へ移植したため，実質的には存続と見なして良いと考えられる．

謝辞

池竹克年氏には，今回の移植作業のきっかけとなる情報提供と，キスゲの写真をご提供いただきました．また，芹沢俊介氏には，キスゲの生育地確認および移植に関す

る助言をいただきました．さらに，愛知県尾張建設事務所と株式会社鈴木工務店の皆様には，猛暑の中，移植作業に尽力いただきました．この場を借りて，協働いただいた皆様に心より感謝申し上げます．

引 用 文 献

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室. 2015. レッドデータブック2014―日本の絶滅のおそれのある野生生物―８植物Ⅰ（維管束植物）．株式会社ぎょうせい，東京，646pp.

名古屋市環境局環境企画部環境企画課．2020．名古屋市版レッドリスト2020．名古屋市環境局環境企画部環境企画課，名古屋，26pp.

芹沢俊介．2015．キスゲ．名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課（編）．名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブック2015－植物編－，pp.127．名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課，名古屋.